

第 20 回日韓海峡沿岸県市道交流知事会議

日時 平成 23 年 12 月 10 日（土）13:30～16:00

場所 にっしょうかん・梅松鶴「鶴・亀」

開会

（司会） 定刻となりました。ただ今から、第 20 回日韓海峡沿岸県市道交流知事会議を開催いたします。本日の会議は、お手元のカラー刷りの冊子 9～10 ページの「詳細日程」に従って進行いたします。

まず、議事に入る前に、これまでの知事会議の経緯について、長崎県企画振興部長の永川重幸よりご報告いたします。

経過報告

永川 重幸 長崎県企画振興部長

長崎県企画振興部長の永川でございます。どうぞよろしく願いいたします。

日韓海峡沿岸県市道交流知事会議のこれまでの経過につきまして、簡単にご報告させていただきます。お手元の資料、「日韓海峡沿岸県市道交流知事会議」（カラー版）の 3～6 ページにございます「経過報告」をご覧くださいと存じます。

1990 年 10 月、長崎県対馬で開催されました、九州北部 3 県知事懇話会におきまして、韓国南海岸地域との交流促進が合意されました。これを契機としまして、九州北部の 3 県と韓国南海岸地域の 4 市道による知事交流会議が始まりました。1992 年 8 月、済州特別自治道において第 1 回会議が、翌年の 1993 年 6 月に、佐賀県において第 2 回会議が開催されました。その後、3 ページの中ほどに記載しておりますが、1998 年 9 月、全羅南道における第 7 回会議から山口県が新たに参加され、現在の 8 県市道の組織となり、現在に至っているところでございます。また、その後、5 ページの中ほどに記載しておりますが、2007 年 10 月に開催されました第 16 回会議において、知事会議の理念について、これまでの「交流」から「共同繁栄」へと拡大転換しております。

このように、長い年月の間、日韓 8 県市道のそれぞれのご努力によりまして、交互に会議が積み重ねられ、昨年、2010 年には、釜山広域市におきまして第 19 回会議が、また、

本日、長崎県におきまして第 20 回会議が開催される運びとなりました。

これまで、両地域間の友好関係の増進と、相互理解の促進を図りながら、両地域の発展と繁栄に資するため、観光や経済分野をはじめとして、青少年交流や文化・スポーツ交流、農林水産や環境分野など、幅広い分野におきまして、日韓の共同によりさまざまな交流事業を展開してきたところでございます。

ここで、これまでの 20 年間で簡単にまとめました映像がございますので、どうぞスクリーンをご覧ください。

—DVD 上映—

以上、簡単ではございますが、経過報告とさせていただきます。

(司会) 長崎県企画振興部長の永川重幸より、これまでの知事会議の経緯につきましてご報告をさせていただきました。

それでは、ただ今から知事会議の議事を始めさせていただきます。議長は開催県の知事が務めることが慣例となっておりますので、長崎県の中村知事が議長を務めさせていただきます。

まず、本会議の議長であります中村法道長崎県知事より、皆さまに歓迎のごあいさつを申し上げます。

議長挨拶

中村 法道 長崎県知事

(中村) 会議の開催に当たりまして、一言ごあいさつをさせていただきます。

本日は、日韓海峡沿岸県市道の知事、市長の皆さま方、そして関係の皆さま方には、ようこそ長崎県へお越しいただきました。県民の皆さま方とともに、心から歓迎を申し上げます。

ごあいさつをさせていただく前に、一言お礼を申し上げなければなりません。去る 3 月 11 日に発生しました東日本大震災に際しましては、韓国の皆さま方には、災害発生直後から、緊急援助隊のご派遣、救援物資のご恵送等、心温まる物心両面にわたるご支援を賜っ

てまいりました。心からお礼を申し上げる次第でございます。特に李明博（イ・ミョンバク）大統領におかれましては、直接被災地に足をお運びいただきまして、被災者の皆さま方に温かい励ましのお言葉を賜ったところであります。日本国民一同、深く感謝を申し上げているところであります。私ども山口、九州各県にとりましては、幸いにして被害を免れることができましたけれども、被災地の1日も早い復旧・復興を願って、これからも被災地のニーズに応じた支援を継続してまいりたいと考えておりますので、どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。

さて、今回の知事会議は20回目の節目を迎えておりますが、こうした記念すべき会議を長崎県で開催できますことを、大変うれしく光栄に存じているところです。ご承知のとおり、ここ長崎県は日本の一番西に位置しております。ということは、韓国、中国大陸に最も近いということです。そうした地理的な特性を生かし、太古の昔から盛んに交流、交易が重ねられてまいりました。特に長崎県の対馬におきましては、韓国と49.5kmしか離れていないという地理的な特性を生かし、日本が鎖国政策を取っておりました時期も、この対馬だけは唯一、韓国に開かれた窓口として、朝鮮通信使の受け入れ、そのほか盛んに交易を重ねて発展を遂げてきたところです。今日におきましても、「対馬アリラン祭り」「ちんぐ音楽祭」「国境マラソン」といった官民挙げての交流が盛んに行われております。

私ども長崎県は、日本の一番西の端にあるということで、決して立地条件には恵まれていないところですが、一方、視点を変えてアジアのスケールから考えたときに、日韓、日中のまさに交流の最前線に位置しているということで、こうした地理的な優位性を今後さらに生かしながら、発展を目指してまいりたいと考えております。

私は知事に就任をいたしまして、もうすぐ2年目を迎えておりますが、目覚ましい発展を遂げておられる韓国、また中国の活力を日本に取り込んで、経済の発展に結び付けていくことが大変重要であると考え、「アジア・国際戦略」を策定し、具体的なプロジェクトに取り組んでいるところでございます。

今日、韓国との関係におきましても、韓流ドラマ、K-POP音楽に代表されるように、若い方々、ご婦人の方々は本当に熱心に韓国の文化を取り入れようとしておられます。そうした環境を生かし、これからの観光交流、あるいは青少年交流の拡大に結び付けていくことが大切ではないかと考えております。

これまでこの知事会議を通して、観光、水産、環境、青少年、文化・スポーツなどの多様な分野において交流が拡大されてまいりました。幅広い取り組みが行われてきましたの

も、この日韓海峡沿岸関係の知事、市長の皆さま方の格別のご熱意とご理解のたまものであると深く敬意を表し、感謝を申し上げているところでございます。

特に、今回のテーマであります「青少年育成・交流」は、これからの両地域のさらなる発展を目指す上で大変に重要な分野であると考えております。どうか本日の会議を通して闊達な意見交換を重ねていただき、大きな成果に結び付いてまいりますよう強くご期待を申し上げます。

これから数時間にわたってご協議をお願いいたしますが、どうぞ忌憚のないご意見を賜りますようお願いを申し上げます、会議開催に当たってのごあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくをお願いいたします（拍手）。

（司会） ありがとうございます。

それでは、ここから議長である中村知事に会議の進行をしていただきます。中村知事、よろしくをお願いいたします。

各縣市道知事発表

テーマ 共通課題「青少年育成・交流」＋自由項目

（中村） それでは、会議日程に従いまして協議を進めさせていただきたいと思っております。

まず、各縣市道から、共通項区であります「青少年育成・交流」、そして自由項目についてそれぞれご発表をいただき、その後、討論を進めてまいりたいと考えております。

まずはじめに、釜山広域市、許南植（ホ・ナムシク）市長さまからお願いをさせていただきます。

①釜山広域市 許 南植 市長

尊敬する日韓海峡沿岸県市道の知事の皆さま、昨年、釜山でお会いしましたが、1年ぶりに元気な姿でまた再会できましたことを大変うれしく思っております。また、この第20回の会議を成功に導くべくご尽力くださり、われわれを温かく迎えていただきました中村法道長崎県知事に厚く御礼申し上げます。

（以下スライド併用：以後同様）

それでは、今回のテーマであります「青少年育成・交流」について申し上げます。「青少年が幸せな都市、釜山」というテーマで、育成政策、そしてグローバル力の強化、日・韓青少年交流への提案の順で申し上げます。

まず、育成施策です。2012年から釜山では、「週5日授業制」の全面施行に伴いまして、自らが率先して力量を強化するための施策を推進しております。創意力への欲求を満たせるように、活動プログラムを開発・普及させ、また、青少年の誰もが公平に機会を得て健康やかに成長できる環境づくりのために努力を傾けております。

また、釜山市においては、大韓民国青少年博覧会、釜山青少年芸術祭など、青少年のための文化芸術祭を開催しております。アジアを代表する映画都市として、映画をテーマとした遊び、キャンプなどを行う釜山国際子供映画祭を毎年開催しております。

一方、国内唯一のゲーム産業国際展示会でありますG-STARを開催しております。参加型ゲームのフェスティバルとして、青少年の夢、そして希望をはぐくんでおります。

文化コンテンツのブルー・オーシャン、すなわち新しい開拓マーケット分野として浮上しておりますマジックフェスティバルを行っております。

また、トップクラスの世界レベルのロックグループ、ロックファンが集います釜山国際ロックフェスティバルを行って、青少年の素質と才能を発散させる祭りであり、また、交流の場となっています。

エコロジー・保存体験を中心とした国立乙淑島青少年生態体験修練院を2015年にオープンする予定です。また、国内最大クラスのホテル型ユースホステルでありますアルピナ、そして、都心のあちこちに位置しております青少年修練施設は、青少年におけるレジャー、リラクゼーション文化の施設として積極的に活用しております。

また、グローバル力の強化としては、さまざまな文化体験、交流行事を行っております。例えば中国の上海、ロシアのハバロフスク市との青少年交流でありますとか、福岡市との青少年スポーツ交流、アジアゲーム開催都市での青少年合同キャンプなど、国際的に見聞を広めるための文化体験とさまざまな交流行事を実施しております。

特に都心に位置しております、次世代体験テーマ型英語村であります BUSAN Global Village、これは青少年の国際交流、外国人留学生を支援する、また別の釜山国際交流財団を運営しております。釜山英語放送も、国内外のニュースを提供しておりますし、情報化、世界化時代への青少年が積極的に対処できる環境づくりを行っています。

続きまして、日・韓青少年交流について二つ提案を申し上げます。

まず、日韓海峡沿岸青少年政策参加会議の開催を提案いたします。8 県市道青少年代表団を構成し、オン・オフライン討論を通じ、導き出した日韓の共同政策課題を知事会議に提案できるよう機会を作るものです。また第2に、グローバルリーダーとしてポテンシャルとチャレンジ精神を呼び起こすために、日韓海峡沿岸にある有名なテーマロードを大遠征しようということを提案したいと思います。日韓の青少年が寝食を共にすることで、お互いを理解し、正しい価値観を育てる良い機会になると思います。

追加スライド「釜山広域市施策及び行事の紹介」

続きまして、釜山広域市の施策、そして、2012 年の国際イベントについて申し上げます。

釜山市はアジア最大の映画祭として成長しました釜山国際映画祭を開催している市です。既に映画の殿堂でありますとか、釜山映像後半作業施設など基盤施設を構築いたしました。今後、映画総合撮影所などを建設し、映画撮影から政策およびマーケティングに至るまで総合支援システムを完備する予定です。

また、2013 年までには、韓国の映画・映像関連公共機関を釜山に移転させ、近い未来にはアジアを代表する映画・映像都市になるものと確信しております。

続きまして、世界の 130 カ国から政府および関連機関や企業など水の専門家 7000 人余りが参加する「2012 IWA 世界水会議」におきまして、学術会議、展示会、ビジネスフォーラムなどさまざまなイベントが行われます。世界的な企業が参加するビジネスモデルの提示でありますとか、また、ウォータービジネスの輸出拡大、また、国内の中小企業への国際ビジネスの機会提供など、関連産業の経済的シナジー効果が大きく期待されます。日韓海峡 8 県市道の関連機関および企業におかれましても、行事の見学、また、展示会などの参

加ができますようご協力をお願いいたします。

また、実際に実質的な交流活性化のための共同物流センターの建設について検討していくことを提案いたします。企業単位での新規の物流センターは大変大きなリスクもあり、現実的に地域の中小物流企業が投資するには難しい実情があります。われわれ県市道が行政的な支援を行い、韓国企業が共同で日本側における物流センターを建て、また、日本企業側が共同で韓国側の物流センター建設への課題を共に検討、推進していくことを願っております。この8県市道に所在している企業が進出するにおいて大きな支援になるのではないかと思います。具体的な造成方法については、日韓海峡圏研究機関協議会において課題として選定、研究していくことを希望いたします。

以上をもちまして、釜山広域市の課題発表を終了いたします。ありがとうございました。

(中村) ありがとうございました。大変貴重なご提言等もいただきました。

それでは続きまして、福岡県の小川洋知事をお願いいたします。

②福岡県 小川 洋 知事

(小川) ありがとうございます。福岡県の小川でございます。4月に知事になりまして、初の参加となります。皆さん方、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

それでは、早速福岡県から共通のテーマ、それから、個別項目を一つご報告させていただきます。

私は、今、子供たちが将来に向かって夢を広げ、はばたく社会を目指しています。近年、日本人の海外留学が激減しております。日本の若者の内向き志向が懸念されております。このような状況を踏まえ、福岡県では年代に応じたさまざまな青少年の育成・交流に幅広く取り組んでおります。

まず、「青少年アンビシャス運動」です。豊かな心、幅広い視野、志を持つたくましい青少年の育成をしていこうというもので、2001年度から実施しております。自然体験やスポーツ活動、海外の青少年との交流などを通じまして、互いに切磋琢磨していく、そうした県民運動として推進しております。この運動には、福岡県の九州大学ご出身の宇宙飛行士でございます若田光一さん、日本人として初めてスペースシャトル・エンデバー号にミッ

シヨンスペシャリストとして搭乗された宇宙飛行士の方にご支援をいただいているところ
です。

次に、「アジア太平洋こども会議」のご説明をします。1989年にスタートしました。こ
れまで延べ52の国・地域から7841名、韓国からは322名のお子さんたちが参加しており
ます。小学生を対象としていますが、こういった年代の方々は驚くほど柔軟でございまし
て、数日間、日本の家庭にホームステイしている間に、互いに理解し合うことができます。
双方にとって非常に貴重な経験となっております。

その参加されたお子さんの中には、ソウルから来られた方で、九州大学への留学を経ま
して、現在も九州大学の研究員として活躍をされている方もいらっしゃいます。こうした
いろいろな分野での活躍をされているわけです。インドネシアから来られた方で、国会議
員になられた女性の方もいらっしゃいます。

次に、「世界に打って出る若者育成」ということですが、今年度から事業を開始しました。
県内の高校、大学が実施します海外体験プログラムを県が支援するものでございます。

今回の支援の対象は、高校・大学合わせて17のプログラム、約300名予定しております。
このプログラムの中には、韓国との間では、福岡、釜山、上海の大学で共同授業交流を含
めまして、三つの交流プログラムが含まれております。

次に、留学生の関係でご説明申し上げます。現在、福岡県には9000人の留学生の方が学
んでおられます。福岡県は、日本全体の都道府県で3番目に留学生の多い県です。

福岡県では、「福岡県留学生サポートセンター」を作っており、福岡への留学のPRに始
まりまして、福岡でお暮らしになります留学生を生活、就職などあらゆる面で支援するた
めに、産官学が協力して2008年に設置しました。2010年度には、同センターの紹介によ
りまして、留学生の方31人の就職が内定しました。韓国からの留学生数は、中国に次いで
2番目になっています。

そして、今年10月ですが、釜山市で開かれまして国際交流イベントに、われわれは留学
PRブースを作りましたが、大勢の韓国の若者が訪れていただきました。

次に、「アジアンビート」、これは多言語によりますウェブサイトです。音楽、ファッシ

ョン、アニメなど、国境を超えて若者が共感できる文化をテーマにして、今、申し上げましたように多言語、日本語、韓国語、中国語（簡体字・繁体字）、タイ語、英語）で情報発信させていただいております。また、併せて交流イベントを実施しております。

今年の6月にアイドル・ジョイント・ライブ、それから10月にはアジアボーカロイドフェスタを開催しましたが、韓国の大勢の若者も参加いただきました。

写真は、釜山の高校生アイドルのマシュマロといったチームのパフォーマンスです。

この「アジアンビート」のアクセス件数は大きく伸びておりまして、平成21年度の208万件が、22年度では675万件、今年上半期では513万件と前年を上回る大変な伸びで増えてきているところです。

以上が共通テーマです。あと1点、県の取り組みについて報告させていただきます。

「グリーンアジア国際戦略総合特区」というものです。この地図は福岡を中心に500km、1000kmというものを引いてみますと、東京よりも韓国はみんな入ってくる、そういう近さであるということが一目瞭然だろうと思います。

現在、日本では総合特区制度を設けて、いろいろな規制改革や税制措置を取りまして、今、経済を発展しようとしています。福岡県は「国際戦略総合特区」の指定を受けるべく、北九州市、福岡市と一緒に、三者で国に対して構想を提案しているところです。

これからの課題はグリーン、エコということです。われわれはグリーン、エコというものをキーワードにして、この地域の強みを発揮して、アジアの皆さんとともに発展し、アジアの成長にも貢献していこうという構想です。

この地域が持っております強みとしては、かつて公害を克服してきた技術と人材があります。それから、省エネルギー、環境に優しいものを作っております産業や研究機能があります。そのほかアジアと地理的に近い、それから今までいろいろな交流を結んできていネットワークがあります。それらを生かして、エネルギーやリサイクルや水といった都市環境インフラをパッケージにして、アジアにお出しすることによりまして、アジアの地域の環境問題の解決にも貢献していきたいと考えております。

2番は、R&Dから量産まで、一貫して環境配慮型の高性能の製品を作ります産業拠点をこの地域に整備していきたいと思っております。

それから、アジアの物流の効率化です。先ほど、釜山広域市長からもお話があったとこ

ろですが、アジアの物流の効率化を図るために、国際 RORO 船につきまして、日本国内の特定のエリア、ルート、これは韓国、中国のシャーンが、日本国内でも走れるようにしたいと思っております。日韓中におきます航空輸送並みのスピードで、低コストの高速海上物流網を整備したいと考えております。

そのほかさまざまな規制を改革して、ヒト、モノ、カネの交流を加速することにより、韓国をはじめアジア各国の企業と、双方向のビジネス展開をしたいと考えております。年内には、国による指定が行われる見込みです。韓国においても、グリーン成長を国家戦略に掲げられております。われわれの特区構想を実現することにより、相互に波及効果が期待でき、日韓両国の発展に寄与していくものと考えております。ぜひとも、今日ご出席の皆さま方に、私どもの特区構想に対しましてご協力とご支持をお願いしたいと思っております。以上です。ありがとうございます。

(中村) ありがとうございます。

それでは続きまして、全羅南道の朴峻瑩（パク・ジュニョン）知事にご発表をお願いします。

③全羅南道 朴 峻瑩 知事

まず今日、このような素晴らしい会議を主催してくださいました長崎の中村法道知事に心より感謝を申し上げます。また、福岡県の小川洋知事、そして、佐賀県の古川康知事、3人の知事の皆さま、初めて当選された方もいらっしゃいますが、このようにまたお目にかかることを非常にうれしく思っております。

昨年の会議で、青少年問題を、地域もですが、国家間でも、青少年たちがお互いを理解することが非常に重要である、そういったプログラムを拡大するのがいいのではないかと、いう考えを持ち、このように提案されたのですが、これまで進展もありましたし、また、今日これをテーマにしまして会議を持つことになりましたが、それには非常に大きな意義があるのではないかと思います。

まず全羅南道は、道が持っている特性上、そこに合う幾つかのわれわれのプログラムがありますので、それを紹介します。そして、その後に提案をしたいと思っております。

まず、全羅南道は、青少年たちが挑戦する人にならなくてはならない、二つ目は、みんなと一緒に共同体の精神を持つ必要があるということ、そして希望を持つ青少年、保護される青少年、そういったテーマを持って青少年の力量を強化し、社会セーフティーネットを構築するという考えを持っています。

全羅南道は、青少年の人口が40万人ほどになります。こうした青少年たちのために全部で19個の青少年支援センターがあります。

そして、40カ所の青少年の研修施設があります。特に人口分布において青少年がたくさんいますが、スタディールーム、放課後アカデミー、性文化センター、憩いの場、夢育成所といったケアサービスセンターが43カ所あります。全羅南道の22の市町村がありますが、1市町村に約2カ所ずつ設置されていることになります。

また、国立青少年宇宙体験センターは、子供たちが実際に体験することができる施設です。

次は、青少年の交流についてです。青少年活動をより活発化させ、活性化させ、青少年たちのコンピタンスをどのように強化していくのかというレベルで、青少年の文化ゾーン、サークル活動などを積極的にできるように支援しています。今、94のサークルが活動しています。また、青少年たちがボランティア活動をすることができるようなプログラムをしており、現在8000人の青少年が参加しております。青少年のボランティアサークル活動です。つまり青少年たちの参加が大事なのですが、それには2万5000人が参加しています。

次には、青少年のリーダー育成が重要であるということで、海外キャンプなどを1年に1回ずつ運営しています。青少年たちが参加する運営委員会があります。そこには575人が活動しております。特に環境問題が大きな問題として注目を浴びておりますが、環境、安全、そして、「平和の道」の巡礼キャンプなどをしてしています。また、楽しい歴史体験などをすることで、国の過去、そして、未来を考える、そういった運動もしております。国際青少年成就の褒章制度も運営しており、これは28の機関が参加しています。

次には、青少年の中でも家庭環境が難しく危機的な状況にある青少年たちに対して支援を積極的に行っています。その対策の一つとして、ソーシャルセーフティーネットの構築をしています。青少年支援センターを19カ所運営しており、また、地域社会青少年統合支

援体系を構築し、13カ所運営しています。そして、夢育成所（Do Dream）は1カ所ありますが、ここには520名が参加しています。次に、青少年性文化センターを3カ所運営しています。

次に、脆弱な生活環境にある青少年を支援する、予防するという次元では、青少年暴力予防事業を行っています。そして、学業を中断した青少年の支援プログラムとしては、アウトリーチ、相談プログラムの移動相談所を、これはまだ初期段階ですが、積極的に運営しています。

そして、青少年が国内外との交流を活発化しなくてはならないということで、ソウルとわが道は姉妹締結していますが、ソウルの学生たちが毎年、全羅南道に来て、農村や漁村に行き、また全羅南道の青少年たちがソウルの英語の体験村に行き活動したり、お互いに交流しています。そして、慶尚南道・北道地域とも交流しているのですが、さまざまな地域との交流を行っております。

次に、麗水国際青少年祭を毎年行っておりますが、国内外の青少年を集め、自分たちの伝統文化、自分たちの個性を発揮する、そして、現地の文化を体験するといったフェスティバルを開催しています。

われわれと姉妹締結している佐賀県もここに含まれますが、日韓の青少年たち、そして中国との青少年交流、ここには含まれていませんが、アメリカと締結している中学校もあります。

海外ボランティア団を開発途上国に送り、海外ボランティアもして、海外事情を理解するというプログラムも提供しています。特に国際医療団をカンボジアなどに送っています。

全羅南道がこれまでしているプロジェクトについて簡単にご紹介しました。

今後、日韓海峡沿岸県市道が共同で青少年プログラムとして取り組めることについて、幾つか提案したいと思います。

まず、日本も韓国も多くのフェスティバル、国際行事を開催していますが、全羅南道を例に挙げますと、来年には麗水の世界博覧会、そして国際農業博覧会が開催されます。その次には、順天湾で国際庭園博覧会があります。佐賀県からも参加を表明してくださいました。ありがとうございます。こういったところを見ますと、日本でさまざまな良い国際会議、フェスティバルがあるときは、韓国から修学旅行を送り込んで体験させてはいかが

でしょうか。そういったことを提案したいと思います。

国際的な行事ではありませんが、各地域の持っている独特の伝統、そして文化を基本としたフェスティバルもたくさんあります。青少年のボランティア団のキャンプを運営することで、日本からは韓国にいらっしゃれば韓国の学生たちがケアをし、また、反対に韓国の学生が日本のフェスティバルに参加することになれば、そこでボランティアたちがケアをするという、そうしたお互いの交流キャンプを提案したいと思います。

全羅南道でしている面白い取り組みを一つご紹介したいと思います。咸平というところで蝶祭りを行っています。そして、宝城ではお茶の祭りもしています。そして、ホンギルトンという韓国のねずみ小僧のような義賊がいるのですが、そのホンギルトン祭りもあります。そして、磁器祭りもありますし、長興の水祭りなど、さまざまな祭りが地域にあります。

福岡、また日本の県で行われるフェスティバルにも、われわれの学生が参加して経験する、そして、共同でお互いが理解するような機会が幅広く広がればいいのではないかと考えております。

これをもう少し制度化するためには、日韓海峡沿岸県市道の青少年フォーラムを創設し、これを持ち回りで開催すればいいのではないかと思います。適切な時期を定めて青少年キャンプをする、フォーラムをするということです。青少年たちにさまざまな素晴らしい経験をさせてあげられる、そして有名な素晴らしい人たちを講師として招いて、一緒に考え、一緒に体験するような場を提供してはいかがでしょうか。もしここで同意をしていただければ、来年度の夏休みにでも日韓の学生たちを集めてキャンプをして、お互いの理解増進の場を設けたいと思っております。

以上で私の発表を終わりたいと思います。ありがとうございました。

(中村) ありがとうございました。

それでは続きまして、佐賀県の古川康知事にお願いいたします。

④佐賀県 古川 康 知事

(古川) それでは、佐賀県の青少年育成、とりわけ世界とのかかわりについての発表をさせていただきます。

佐賀県は、今年の春に高校生たちを海外に派遣しました。これは税金が元手ではなく、佐賀県が発行した記念貨幣の発行益（シニョレッジ）を財源にしたものでしたが、1 回だけしかできない事業でしたので、その財源を使って、未来を担う高校生と大学生に海外体験してもらおうということで行ったものです。

そのうち高校生の方は、30 日間で世界一周をしてもらいました。福岡で出発して、すみません、韓国は寄らなかつたのですが、中国からタイに行って、そこからデリー経由でブータンに行きました。ブータンというのは九州と同じぐらいの大きさの国で、人口は 60 万人ぐらい、佐賀県よりも小さいぐらいです。経済的には貧しいけれども、人々の幸せの向上を願って国造りをしているところで、そういう国をしっかりと見てこいということをお願いしました。

その後、中東を経由して、エルサレムなどを経由して、ヨーロッパは特にルクセンブルクという国を見てこいということを行いました。このルクセンブルクという国は面積がほぼ佐賀県と同じぐらいです。人口も 50 万人ですが、EU の中で最も一人当たり国民所得の高い国です。それはなぜかという、主に金融を主産業としているからです。このように人口や面積だけで国造りが決まるわけではないことを、高校生たちに見せました。

これはブータンの高校生の様子ですが、経済的に貧しいにもかかわらず、高校生たちがニコニコしていたというのと、英語力が非常に彼らは高かった。教育はほとんど、インド人が英語で教えていまして、その結果、ブータンの子供たちは英語力が極めて高いということが高校生たちの率直な感想で出ていました。

また、ヨルダン、トルコといった国々を旅行すると、歴史や宗教について、非常にもっと勉強しなければという思いを深くして、高校生たちは帰ってまいりました。

一方、大学生は、アメリカに絞って西海岸に 14 日間行きました。青色発光ダイオードの発明者である中村さんに面談したり、Google の本社などにも寄っています。

彼らを感じてきたことは、とにかく挑戦をしないことがリスクだという考え方でした。前向きに変革していくということであれば駄目なのだというのも大学生たちも多く感じて帰ってまいりました。

若い世代にこうしたさまざまな海外との交流体験を積ませることは、われわれにとって絶対的に必要なことだと考えています。その一環として、これから佐賀県は高校生の留学促進を行っていきます。例えば毎年50人目標で高校生の留学をさせていこうと考えています。

もちろん留学先もそうですし、そのために姉妹校提携の促進もしていきたいと思っております。県内のすべての高校が、海外の学校と交流できるようにしていきたい。そして、ぜひとも韓国の学校とも、こうした交流ができていけばと思っているところですし、自国の中だけのことを考えるような次世代の人間ではなく、常に広い視野を持った人間たちを育てていきたいと思っています。

最後に、佐賀県は海外のロケ誘致を行っております。これは世界とつながる方策の一つとしてやっております。韓国との関係でいけば、「家門の栄光4～家門の受難～」という作品をこの間やりました。非常に笑いの多い作品ではあるわけですが、こうしたことも含めて、韓国との交流も深めていきたいと考えております。

ということで、佐賀県のご紹介でございました。ありがとうございました。

(中村) ありがとうございました。

それでは次に、済州特別自治道の禹瑾敏（ウ・グンミン）知事さまにお願いしたいと思います。

⑤済州特別自治道 禹 瑾敏 知事

(禹瑾敏) 済州特別自治道知事の禹瑾敏です。日韓海峡沿岸会議が既に20回目を迎えることになりました。私が任命される道知事という形で、初めての会議を済州道で行ったことがありました。そういった面からも大変感慨深いものを感じております。

4日前に、青森県を訪問しました。済州道と関連するさまざまな事項を、青森の知事と話し合い、昨晚、こちらに参りました。先ほども長崎県知事がおっしゃいましたが、ここでとても美しい夜景を拝見しました。本日も、このように県市道知事交流会議を通じて、長崎県の中村法道知事、また関係の皆さま方、この会議開催のためにご尽力いただきまし

たことを大変うれしく思っており、感謝申し上げます。また、福岡県の小川洋知事には、当選なさった後、この場でお会いできましたことを大変うれしく思います。佐賀県がいつも発展する姿を見せてくださる古川康知事、大変ダイナミックな力あふれる努力をなさっていらっしゃることを感じております。山口県の知事はご欠席ということですが、副知事にお会いできましたことをうれしく思っております。

20 回目のこの会議ですが、濟州道において参加しました 5 年前に特別自治道という名称が変わりました。この名称の違いといいますのは、外交、国防、司法を除くすべての権限をこの濟州特別自治道道知事に対し委任するという特別法を作り、特別自治道という名称に変わったわけです。国が持っていた 3839 の業務がこの濟州道知事に対して委任されました。このようなさまざまな業務に私どもが従事し、努力を傾けていることをまず申し上げます。

濟州道の世界 7 大自然景観、国際自由都市であることについて、また濟州特別自治道の青少年の交流政策などについて簡単に申し上げたいと思います。そして一般現況としては外国人観光客 200 万人を誘致するために努力を傾けていること、青少年育成・交流、また協力要請事項の順序で申し上げます。

濟州道の産業構造は、観光を中心としたサービス産業、いわゆる第 3 次産業が 76.9% を占めており、ほとんどが観光に依存した状況にあります。今年 11 月末現在、900 万人近くの観光客が濟州道を訪問しています。

濟州道は、生物圏保全地域、また、世界自然遺産、世界ジオパークとして、ユネスコの自然科学分野の三冠王を達成しました。世界における唯一の島であると認められ、先月 11 月 12 日、世界 7 大自然景観としての栄誉に輝きました。ほかにブラジルのアマゾン、南アフリカ共和国、アルゼンチンのイグアスなど 7 カ所が選ばれています。

7 大自然景観として選ばれたわけですが、昨年、釜山の知事会議において、県市道の知事の皆さま方に積極的な支持をしていただきましたおかげで、このような栄誉に輝けたものと思っております。重ねて感謝申し上げたいと思います。これからわれわれは自然を体系的に管理することで、世界中の人たちに見せなければいけないという思いを持っており

ます。

濟州特別自治道においては、外国人観光客誘致数 200 万人を掲げております。また、7 大自然景観に選ばれたことで、今年は観光客が既に 31%増加した状況にあります。

続きまして、青少年育成・交流について申し上げます。今年 10 月、濟州道と姉妹友好都市協定を結んでおりますロシア、ベトナム、日本などの高校生を招待し、地球環境保護、また、インターネットのエチケットなどにおけるグローバルな課題に対する討論を行う濟州国際青少年フォーラムを開催しました。この日韓海峡沿岸に関係しております福岡、佐賀、長崎、山口県の青少年の皆さまが共に参加しました。ここでは、各国から来た学生の皆さんが英語で会話し、発表し、対話しました。

濟州道におきましては、2012 年に、WCC（世界自然保全総会）と並行して、世界青少年環境協議体のサイトを開設・運営し、サイバー青少年フォーラムを開催するなど、世界の青少年の皆さんとのネットワーク構築を推進する計画です。参加する都市が日中韓地域において偏った傾向にありますので、ヨーロッパやアメリカ、欧米地域の青少年が参加できるように拡大発展させる計画です。

濟州道においては、国際化奨学財団を作り、基金が 50 億を若干超えております。中高大学生が国際的な視野を広げ、また海外に羽ばたくための支援を傾けております。

最後に、協力要請の事項としては、2012 年 9 月、先ほど申し上げました、世界環境オリンピックといえる 180 の国から集まります、1100 を超える政府機関、団体などから 1 万人を超える人たちが WCC（世界自然保全総会）に参加します。韓国の国会において、支援法を特別に制定し、推進しております。

また来年 5 月には、外国における前・現職首脳、また高級官僚や学会・財界などの専門家 2000 人が参加する第 7 回濟州フォーラムが行われます。知事の皆さまの支持、またご協力をお願いいたします。

わが濟州道はユネスコが認める宝の島です。また、New7 Wonders 財団が選定した世界 7 大自然景観でもあります。リュックサックを背負って、運動靴を履いて、濟州道のオルレ

ロードを、山歩きをするたくさんの方々が訪れています。カジュアルな服装でおいでになって、自然を満喫しているような状況にあるということも申し上げたいと思います。

以上、済州道側の発表を終わります。ご傾聴ありがとうございました。

(中村) ありがとうございました。

それでは続きまして、山口県の岡田実副知事にお願いします。

⑥山口県 岡田 実 副知事

(岡田) ありがとうございます。山口県副知事の岡田実です。二井知事が体調不良のため、急きょ私が代理で出席させていただくことになりました。どうぞよろしく申し上げます。

発表の前に、この10月に開催しました山口国体、そして全国障害者スポーツ山口大会にきましてご報告させていただきます。山口国体の総合開会式には、韓国の4市道からも関係者の皆さまにご出席いただきました。また、3県の皆さまには、知事さんをはじめ多数ご参加をいただきました。心からお礼を申し上げます。

両大会は、選手の活躍はもちろんでございますが、スタッフやボランティアなど、多くの皆さまのお力添えで大成功を収めることができたと思っております。また、3月11日に発生しました東日本大震災、この大震災の復興を支援する大会として開催をしましたが、東北3県をはじめ被災地に皆さま方に、力強いエールを送ることができたと思っております。皆さまのご協力、ご支援に対しまして、重ねて厚く御礼を申し上げたいと思います。

それでは、発表に移りたいと思います。

次代を担う青少年が心身ともに健やかに成長していくことが私たち共通の大きな願いであらうかと思えます。このため本県では、青少年の社会参加や体験活動、さらには国際交流の推進によりまして、広い視野と豊かな国際感覚を培い、国際化時代にふさわしい青少年の育成に取り組んでおります。

体験活動につきましては、大自然の中での活動を通じまして、豊かな人間性をはぐくむ「OBS手法」を全国に先駆けて導入して、自然体験活動を重視した教育を推進しています。

その一つに、小学生や中学生、そして、高校生を対象としました「心の冒険・サマースクール」があります。これは9日間にわたりテント生活をしながら山々を縦走するもので、子供たちが活動目標を定め、実践し、振り返り、それを日常生活に生かすことを目的としております。この活動を通じて、子供たちの自主性や積極性、さらには協調性が高まるなどの効果が現れておりますので、今回、ご紹介をさせていただきました。

次に、韓国との交流についてです。姉妹提携先の慶尚南道とは、10年以上にわたりまして、スポーツや学校訪問など、高校生の交流を進め、国際感覚豊かな人材の育成に取り組んでおります。

今年8月には、韓国でトップクラスの実力を持つ、善明（ソンミョン）女子高校バレーボールチームを本県にお招きして、国体前のエキシビジョンマッチとして、国体チームや県内高校選抜チームと試合を行いました。また11月には、本県の高校生12名が慶尚南道を訪問しまして、高校で交流活動を行ったほか、産業施設や大蔵経（だいぞうきょう）千年世界文化祝典などを見学しております。さらに来週の火曜日、12月13日からは、慶尚南道の高校生12名が本県を訪問しまして、授業体験や史跡見学などを行う予定となっております。

大学生の交流としては、県主催でスタートしました慶南青年カレッジがあります。現在は、大学生が主体となって企画・運営しておりますが、毎年、本県と慶尚南道、あるいは釜山広域市等の大学生が相互に訪問して、文化体験、平和学習、ホームステイなどさまざまな交流を行っており、来年はその20回目を迎えます。

次に、以前、二井知事からもお話ししておりますが、2015年に世界スカウトジャンボリーが、そしてそのプレ大会として、2013年には日本ジャンボリーが本県で開催されます。世界大会は、国内外からスカウトなど3万人が集い、キャンプや交流活動を展開するものですが、スカウトのみならず、多くの青少年が国際理解を深める絶好の機会となります。

この大会を契機といたしまして、ボランティアや国際交流活動への参加を通じまして、次代を担う青少年を育成していきたいと考えております。韓国からも多くのご参加をいただきますように、ご支援・ご協力をお願いしたいと思います。

さて、昨年始まりました海岸漂着ごみ一斉清掃には、二井知事も参加し、私も今年7月に行われました清掃活動に参加しました。当日は、漁業関係者、地元の小中高生など2万人を超える多くの県民が参加しまして、海岸の環境美化への意識が一層高まっていることを感じました。今後もこの取り組みを継続し発展させ、私たちの共通財産である日韓海峡を守っていきたいと思っております。

最後に、本県では「年間観光客3000万人構想」を持っていますが、この構想を県づくりの重点事業の一つに掲げまして、民間と行政が一体となって観光振興に取り組んでいます。この構想の実現に向けて、来年、2012年を「おいでませ！山口イヤー」と位置付けまして、3月から「おいでませ！山口イヤー観光交流キャンペーン」を実施し、多彩なイベントを展開してまいります。

本県は、ご案内のように、新鮮な海の幸、山の幸をはじめ、良質な温泉、カルスト台地「秋吉台」、日本屈指の鍾乳洞「秋芳洞」などの自然景観、近代日本の幕開けとなりました明治維新等の歴史遺産など、魅力ある観光資源に恵まれております。釜山、全羅南道の光陽（カンヤン）とを結ぶ国際フェリー航路を有する本県では、これらの航路を活用したツアーを積極的に支援しておりますので、どうぞご利用いただきまして、ぜひご来県いただきますようお願いいたします。

私からの発表は以上でございます。ありがとうございました。

（中村） 大変ありがとうございました。

それでは次に、慶尚南道の金斗官（キム・ドゥグアン）知事さまをお願いいたします。

⑦慶尚南道 金斗官 知事

（金斗官） 慶尚南道の知事、金斗官です。尊敬する日韓海峡沿岸県市道の知事の皆さま、そして、この会議の成功的な開催のためにご尽力くださいました中村法道長崎県知事、本当に皆さまとお目にかかれてうれしく思っております。北東アジア時代の主役である青少年の育成が重要な国際的な国家的な施策として注目を浴びている今、八つのこの市道県が青少年施策をテーマにして発表することは非常に意義深いことだと思っております。

それでは、ただ今から、慶尚南道の健康で元気で力量のある青少年育成プランについて説明したいと思います。

まず、慶尚南道の青少年の基本現況ですが、青少年の人口は 68 万人余りで、道内の人口の 20.6%を占めています。青少年支援センターは 21 カ所、そして、放課後アカデミーは 15 カ所、そして、374 の団体で青少年の健康な成長と保護のために活動を行っております。

次は、青少年の政策ビジョンと目標についてお話ししたいと思います。慶尚南道の青少年政策は、「夢を育む青少年、繁栄 1 番地・慶南をリードする主役に！」というビジョンを掲げ、青少年施策の推進システムの構築、そして自己主導的なコンピタンスの向上によって未来指向的な青少年を育成する、そして国際交流などを通じたグローバル人材の育成など、三つの目標を設定し、先進慶南の主役に育成するため努力をしております。

次は、慶尚南道の青少年政策の主要事業についてです。まず、政策の効率的で総合的な連携を図るため、青少年総合支援本部と三つの運営委員会を運営し、総合的な青少年支援サービス体系を構築しています。

二つ目に、慶尚南道では、青少年たちに多様な体験活動の機会、そして、グローバルな力量を提供するため、自己主導的な力量増進事業を推進しています。毎年、青少年のハンマウム（団結）祭り、そして、青少年文化ゾーンなどを運営し、それを通じて歴史の遺跡地の巡礼、そして、海外文化探訪などの機会を提供しており、そして、青少年の歴史意識や文化的な完成をはぐくみ、共同体の生活を通じた協調性などを育成しています。

次は、グローバルな人材育成の一環として、中国、ロシア、ベトナム、日本などの 4 カ国と国際交流を行っております。訪問と招聘を隔年で行っており、ホームステイや文化体験活動、そして、歴史の遺跡地探訪などのプログラムを推進しています。こういったことを通じて世界市民としての意識、そして、グローバルリーダーシップなどを涵養しているわけです。

最後に、青少年政策の今後の推進方向ですが、慶尚南道では、国際交流を多様に拡大し、青少年たちに国際的なマインドを高め、そして自主的で時代の変化を主導する青少年育成政策を推進し、次世代の主役である青少年が幸せに生きることのできるソーシャルセーフ

ティーネット構築を推進していく予定です。

最後に、慶尚南道で開催される国際行事についてお話ししたいと思います。まず、第15回国際赤潮会議です。「人間と赤潮」というテーマで、来年の10月29日から11月2日まで5日間にわたり、慶尚南道の昌原市一体で開催されます。

慶尚南道では、2013年山清世界伝統医薬エキスポも開催されます。そして、これは2013年の9月10日から10月19日まで40日間行われます。これは韓国の韓医学の優位性を世界に知らせる素晴らしい機会であり、国際的なステータスを高めるための国際行事ということができます。韓国の韓医学についての真の意味を感じる機会になるでしょう。皆さまのご参加をお待ちしております。

次の時代の中心は北東アジアです。北東アジアの中心軸として発展するため、8県市道の活発な交流活動が行政発展の良い機会となることを願っております。

これで簡単に私の報告を終わりたいと思います。ありがとうございました。

(中村) ありがとうございました。

それでは最後に、長崎県から発表をさせていただきます。

⑧長崎県 中村 法道 知事

(中村) まず、長崎県における「青少年育成・交流」に係る取り組みについてご報告をさせていただきます。

先ほども申し上げましたとおり長崎県は、海を隔てて大陸と大変近い距離にあり、太古の昔から盛んに交流、交易が重ねられたところです。私はこうした歴史的な特性、あるいは地理的な優位性を生かしながら、今後さらに両地域の交流を大きく拡大してまいりたいと考えております。そうした取り組みの一環として、「アジア・国際戦略」の策定・推進に力を注いでおります。

そうしたことから、青少年の育成・交流の分野につきましても、これからのグローバル社会において、国際的な感覚を育成する必要があると考えております。そうした国際理解の促進につながる意味からも、国際的な人材の活用・育成という課題は大変重要な課題で

あると考えております。

まず、外国人留学生など海外の人材の積極的な活用・育成につきましては、長崎県においては、県、長崎市、長崎大学、商工会議所など経済4団体のトップで構成する「長崎サミット」を定期的で開催しております。その会議の中で、地域活性化に向けた産学官一体となった取り組みを推進することとしておりますが、こうした取り組みの中で、現在1650名の留学生が長崎県内に在住しておられますが、留学生を3000人まで増加させようということで合意を見たところですが、従いまして、その受け入れから就職支援までワンストップで行うような総合的な支援組織の構築を進めていこうということで合意を得て、今後具体的に取り組みを進めることにしております。

こうした取り組みを進める中で、語学が堪能で、海外的な舞台で活躍できるような人材を育成・活用して、そのことをもって県内のさまざまな分野での波及効果を期待していこうと考えております。

次に、高校生・大学生の育成についてですが、この分野においては本県独自の取り組みとして、離島留学制度を設けております。これは県内の壱岐、対馬、五島にあります高校に、本土、あるいは県外から進学生を募集しまして、島独自の文化や自然の中で特色ある教育を行うものです。

例えば韓国との交流が大変盛んな対馬にあります対馬高校におきましては、公立高校では唯一韓国語の専門的な学習を行っております。そしてまた、ホームステイ、韓国文化の体験を通して、国際交流に貢献できるような人材の育成を目指しているところです。

一方、長崎県立大学シーボルト校ですが、公立大学としては非常に珍しく国際交流学科を設置しておりまして、実践的な外国語能力、今日の国際社会に対する理解能力を備えた国際的な人材の育成に力を注いでおります。

資料にありますとおり、このほか海外への修学旅行の実施、あるいは海外からの修学旅行生の受け入れ等、学校交流を伴う盛んな交流が行われております。

一方、民間レベルでも、韓国のテコンドー団体との交流が盛んに行われております。

また、近年になりまして、長崎県内の各都市と韓国の各都市との姉妹都市締結も増加す

る傾向にあります。具体的に申しますと、雲仙市と全羅南道の求礼郡、波佐見町と同じく全羅南道の康津郡、佐世保市と京畿道の坡州市との間で友好関係締結がなされまして、ホームステイ、サッカー交流などが盛んに行われております。

そしてまた、このほか県の美術館と釜山市の市立美術館との間では、先般、許南植市長にもご来県をいただきまして、交流協定を締結したところでした。早速、両美術館をテレビ会議システムで結んで、対馬と釜山の高校生交流が行われているところでありまして、今後さらなる進展が期待される所です。

以上ご報告をさせていただきましたように、次の世代を担う青少年たちに国際的な交流の機会を提供していくということは、青少年にとっても自己の成長につながってまいりますほか、これからの平和的・友好的な国際関係を構築していく上で大変重要な取り組みであると考えておりまして、今後とも積極的に推進してまいりたいと考えております。

次に、個別項目ですが、長崎と韓国を結ぶ航路の拡充についてご説明したいと思います。韓国に一番近い国境の島であります対馬においては、先ほど来ご説明させていただいておりますとおり、朝鮮通信使に代表されるように古くから韓国との交流がありました。現在、この対馬と釜山間に航路が開設されておりましたが、去る3月の東日本大震災で一時運休をするという事態に直面していましたが、おかげさまで今日運航が再開されました。そしてまた、10月、11月になりまして、新たに2社がこの対馬航路に参入しております。年間10万人を超える方々の交流が行われているところですが、さらなる交流の拡大に結び付けてくるものと期待している所です。

それから、もう一つ新しい動きとして、佐世保港が国際定期旅客航路としての日本海側拠点港の一つに選定されました。これは2014年の佐世保・釜山航路の開設を目指して、現在、埠頭の整備が進められている所です。こうした航路を有効に活用しながら、さらに長崎県と韓国との交流拡大に力を注いでいきたいと考えております。

それから、もう一つご報告を申し上げたいと思いますのは、対馬市で現在建設計画が進められております「対馬歴史海道博物館」についてご説明したいと思います。

大変古くから交流の舞台となってまいりました対馬ですが、韓国との交流を物語る史跡「宗家文書」などの文物が数多く残されている所です。こうした資産を有効に継承・

活用しながら、日韓の交流ネットワークをさらに拡大し、情報を発信する拠点として、こうした「歴史海道博物館」の建設計画を進めているところです。この博物館は2016年の開館を目指して、今、具体的な検討を重ねている段階です。

それから、国際会議の開催について一つだけご案内をさせていただきたいと思います。これは「第5回ジオパーク国際ユネスコ会議」の長崎県開催についてです。実は日本国内では島原半島が、2009年に日本で初めて世界ジオパークネットワークに加入が認定されたところです。その島原半島において、2012年5月に「ユネスコ世界ジオパーク会議」が開催されることになりました。日本では当然初めての開催となっております。

この会議では、専門家による基調講演、シンポジウムなどが予定されておりますほか、世界各地のジオパークを紹介するブースなども設置されることになっております。機会がありましたら各県知事の皆さま方にも積極的なご参加を賜れば、大変ありがたいと思っております。

以上をもちまして発表を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

以上、一とおりに各県知事、市長の皆さまからの発表をいただいたところです。それでは、ここで約15分間程度の休憩を取り、その後、自由討論の時間を設けておりますので、あらためてご協議をいただければと思っております。